



**2015年3月期  
中間決算説明資料**

**伊藤忠エネクス株式会社**  
**(東証一部 8133)**

# 1. 2014年度上期 全社決算概況

# 2. セグメント情報

# 3. 下期以降の取組み

# 4. 電力事業の取組み

# 5. CSR活動報告

# 1. 2014年度上期 全社決算概況

## 2. セグメント情報

## 3. 下期以降の取組み

## 4. 電力事業の取組み

## 5. CSR活動報告

# 環境報告

		2013年 9月末時点	2014年 3月末時点	2014年 9月末時点	3月末差
DUBAI原油	\$ / BBL	108.28 (9/30時点)	105.00 (3/31時点)	94.61 (9/30時点)	△10.39
通関CIF原油	円/KL	68,930 (9月平均)	70,838 (3月平均)	70,020 (9月平均)	△818
CP (プロパン)	\$ / トン	850 (9月分)	855 (3月分)	745 (9月分)	△110
電力スポット価格 (JEPX)	円/kWh	14.54 (9月平均)	17.84 (3月平均)	13.92 (9月平均)	△3.92
為替 (TTS)	円 / \$	98.75 (9/30時点)	103.92 (3/31時点)	110.45 (9/30時点)	+6.53
エネクス株価	円 / 株	510 (9/30時点)	593 (3/31時点)	707 (9/30時点)	+114

# 2015年3月期 上期業績ハイライト

(単位：億円)

会計基準	IFRS (国際会計基準)					
	2013年度 上期	2014年度 上期	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	2014年度 計画	計画 進捗率
売上高	6,912	6,966	+55	+0.8%	16,000	43.5%
営業活動に 係る利益	48	60	+12	+24.9%	138	43.3%
税引前利益	66	57	△9	△13.6%	138	41.4%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	32	28	△4	△11.5%	76	36.9%

※売上高については日本基準にて記載。

## POINT

1. 大阪カーライフグループ（日産大阪販売）買収、電力・ユーティリティ事業の拡充効果、エネルギートレード事業の好調により**増収・増益**（ホームライフ、カーライフ事業の苦戦をカバー）。
2. 前期特別利益（株式売却益）の影響で、税引前利益・税後利益は前年を下回るも、実質増益。

# 連結貸借対照表

(単位：億円)

	2013年3月末	2014年3月末	2014年9月末	前期末増減
流動資産	1,882	1,882	1,744	△ 138
固定資産	1,328	1,328	1,671	+342
総資産	3,210	3,210	3,415	+205
流動負債	1,592	1,592	1,649	+57
固定負債	583	583	654	+71
資本	1,036	1,036	1,112	+76
ROE	7.5%	7.7%	7.8%	+0.1%
Net DER	0.34	0.33	0.40	+0.07

## POINT

### 1. 重点施策の推進

#### ①【カーライフ事業のビジネスモデル変革】

大阪カーライフG買収による資産増

+412億円

#### ②【電力・ユーティリティ事業の基盤整備】

JENホールディングス、東京都市サービスの設備新設・増強 による資産増

+53億円

### 2. 季節要因等による売上債権の減少

△245億円

通期着地見込

# 連結キャッシュ・フロー計算書

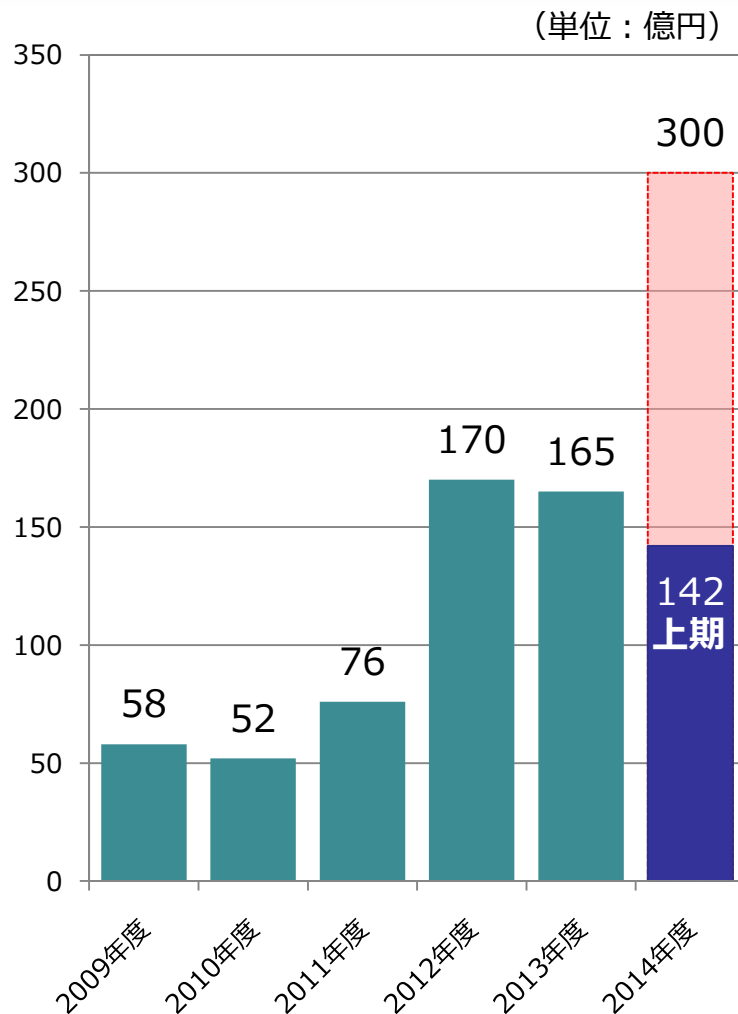
(単位：億円)

	2013年度 上期実績	2014年度 上期実績	増減額	当期フローの主要因
営業活動CF	122	182	+61	売買所要資金の減少 (季節要因、資金効率の低い取引・在庫見直し等) 114億円 税引前四半期利益 57億円
投資活動CF	▲ 67	▲ 88	△ 21	石炭火力の増強 ▲25億円 大阪カーライフG買収の影響 ▲22億円
フリーCF	55	95	+40	
財務活動CF	▲ 68	▲ 76	△ 8	有利子負債の返済 ▲61億円 配当金の支払い ▲14億円
現金同等物 期末残高	168	161	△ 7	

## POINT

1. 売買資金効率のUPにより営業CFが大幅改善
2. 投資は概ね計画通り進捗

# 投資状況



## 主な投資実績 (2014年上期)

(ホームライフ事業本部)

営業権買収 : 約13億円

(カーライフ事業本部)

大阪カーライフG買収 : 約61億円

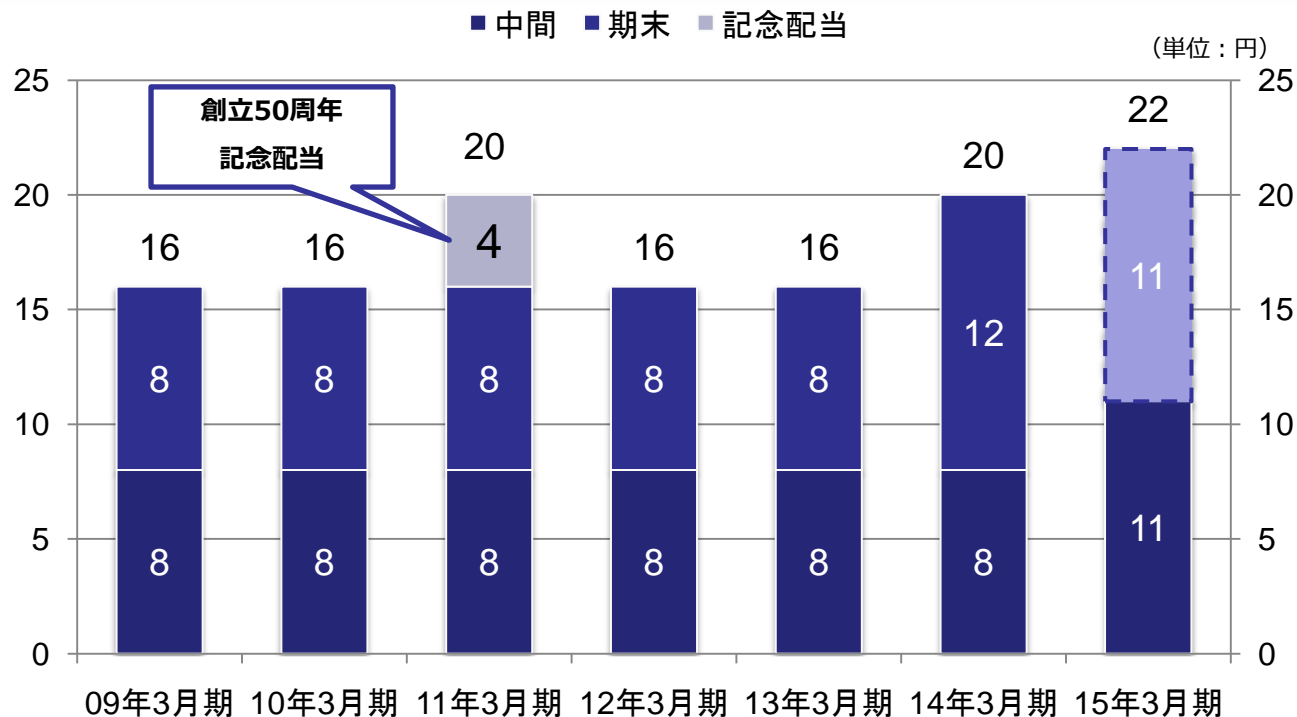
(電力・ユーティリティ事業本部)

石炭火力増強 (防府) : 約25億円

**発電事業等、大型投資においては、  
 引き続きプロジェクト・ファイナンスを活用  
 (リスク低減 + 外部からの事業評価)**



# 配当



## POINT

【配当方針】 継続的な安定配当、中間配当と期末配当の年2回の配当

【配当性向】 連結配当性向30%超を指針

## 連結販売数量（主要商品）

		2013年度 上期実績	2014年度 上期実績	増減率
ガソリン	(千kl)	2,035	1,827	△10.2%
灯油	(千kl)	442	324	△26.7%
軽油	(千kl)	1,666	1,575	△5.5%
重油	(千kl)	2,126	1,855	△12.7%
<b>燃料油【計】</b>	<b>(千kl)</b>	<b>6,270</b>	<b>5,582</b>	<b>△11.0%</b>
アスファルト	(千t)	197	174	△11.7%
LPガス	(千t)	283	276	△2.5%
電気	(Gwh)	553	533	△3.5%
蒸気	(千t)	374	393	+5.2%
熱量	(TJ)	786	728	△7.4%

### POINT

【燃料油全般】 原油価格の高止まりや消費税増税の影響などにより販売数量は減少

【電熱供給】 売電量は夜間電力スポット相場低下等により減少（契約量は増加）

熱量は夏場の平均気温低下で需要減となり減少

1. 2014年度上期 全社決算概況

2. セグメント情報

3. 下期以降の取組み

4. 電力事業の取組み

5. CSR活動報告

# セグメント情報

(単位：億円)

		2013年度 上期実績	2014年度 上期実績	増減額
ホームライフ 事業本部	売上高	518	515	△ 3
	税引前利益	17	9	△ 8
カーライフ 事業本部	売上高	2,849	3,191	+342
	税引前利益	4	5	+1
電力・ユーティリティ 事業本部	売上高	179	193	+14
	税引前利益	39	25	△ 14
エネルギートレード 事業本部	売上高	3,361	3,067	△ 295
	税引前利益	5	12	+6
その他・調整額	売上高	4	1	△ 3
	税引前利益	0	6	+6
全社合計	売上高	6,912	6,966	+55
	税引前利益	66	57	△ 9

※売上高については日本基準にて記載。税引前利益についてはIFRS基準にて記載。

# セグメント情報（ホームライフ事業本部）

（単位：億円）

		2013年度 上期実績	2014年度 上期実績	増減額
ホームライフ 事業本部	売上高	518	515	△ 3
	税引前利益	17	9	△ 8

※売上高については日本基準にて記載。税引前利益についてはIFRS基準にて記載。

## POINT

- ◆LPG顧客数は堅調に推移。（数量前年同期並み）
- ◆CP市況の下落に伴い、売上単価が下落。期初在庫との価格差によりマイナス影響大。
- ◆新エネ機器および住宅関連商材販売は、消費増税による駆け込み需要の反動等により低調。

# セグメント情報（カーライフ事業本部）

（単位：億円）

		2013年度 上期実績	2014年度 上期実績	増減額
カーライフ 事業本部	売上高	2,849	3,191	+342
	税引前利益	4	5	+1

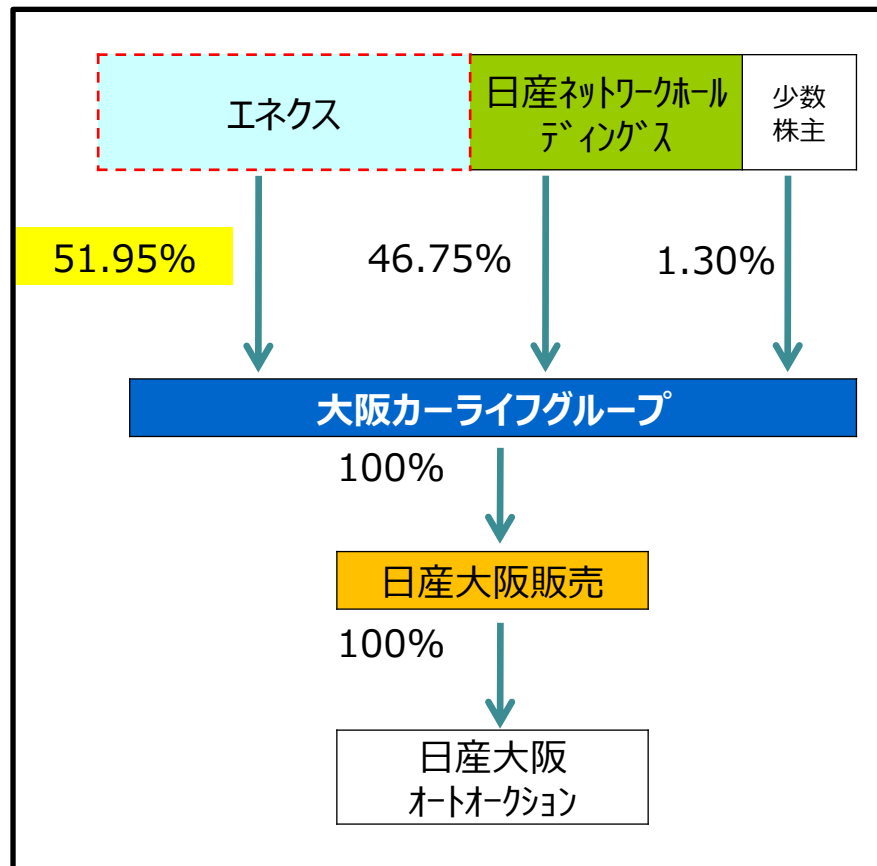
※売上高については日本基準にて記載。税引前利益についてはIFRS基準にて記載。

## POINT

- ◆消費増税の反動、石油製品価格の高止まり等に起因する販売数量減少により、石油販売における収益は昨年を下回る状況が継続。
- ◆収益構造の改革が主要課題と認識する中、2014年5月に大阪カーライフGをグループ会社化し、中間決算にも大きく貢献。
- ◆販社体質強化を目的として不採算CSの撤退及び運営移管を実施。同時に、体質改善の一環として進めているカーライフ収益改善を推進し、前年同期比112%を達成。

# セグメント情報（カーライフ事業本部）

## 大阪カーライフグループ<sup>°</sup>（日産大阪販売）をグループ化



### 会社概要

売上高	約1,100億円
新車販売	約33,000台/年
拠点数	107カ所
従業員数	約2,200名

### 2014年度上期実績

売上高	335億円
四半期利益 <sub>(6-9月)</sub>	320百万円
エネクス帰属利益	166百万円

※上期実績は6～9月の実績となります。

# セグメント情報（電力・ユーティリティ事業本部）

(単位：億円)

		2013年度 上期実績	2014年度 上期実績	増減額
電力・ユーティリティ 事業本部	売上高	179	193	+14
	税引前利益	39	25	△ 14

※売上高については日本基準にて記載。税引前利益についてはIFRS基準にて記載。

## POINT

- ◆ 電力小売は今年度より東北・中部・九州へ進出（関西駐在所新設）。東京・関西・中国での契約も増加し、電力販売は堅調。発電においては、新設風力発電所（JEN胎内ウインドファーム）が稼働開始。
- ◆ 熱供給事業は天候不順と省エネ意識の高まりで販売熱量は減少したものの、原材料のコスト削減等により収支は前年同期並みを確保。
- ◆ 前期は関係会社株式売却益あり、税前利益は前期を下回る。



# セグメント情報（エネルギートレード事業本部）

(単位：億円)

		2013年度 上期実績	2014年度 上期実績	増減額
エネルギートレード 事業本部	売上高	3,361	3,067	△ 295
	税引前利益	5	12	+6

※売上高については日本基準にて記載。税引前利益についてはIFRS基準にて記載。

## POINT

- ◆ 新規取引の獲得及び入札案件等により利益を確保。
- ◆ 流通機能の最適化に伴う、コストの見直しを実施。
- ◆ 下期に向けた機能・体制の整備を実行（流通機能・エリア戦略）。

1. 2014年度上期 全社決算概況

2. セグメント情報

3. 下期以降の取組み

4. 電力事業の取組み

5. CSR活動報告

## 下期以降の取組み（ホームライフ事業本部）

### 新規客先獲得・機器拡販による収益確保と電力小売自由化 へ向けての体制基盤強化

- ◆収益の源泉であるLPG増販に向け、卸・直売ともに新規取引開拓を継続。  
直売既存顧客への燃料転換等による増販策も推進。
- ◆「Smart Life」キャンペーンを中心にガス機器・新エネ機器を再拡販。
- ◆電力・都市ガス自由化に向けた体制基盤の強化。
- ◆自社および系列販売店を通じたエンドユーザーへ太陽光発電、燃料電池、  
リチウムイオン蓄電池のエネルギーベストミックス提案を継続。
- ◆保安サービスの充実を図り、最需要期の消費者保安を確保。

## 下期以降の取組み（カーライフ事業本部）

**「CLリバイバルプラン」を深化させた「CLマスタープラン」を策定  
⇒ 収益構造の改革 ～石油収益50：車関連収益50へ～**

### ◆基本活動の再徹底

- ・既存販売網との関係強化を再度実施し安定販売量を維持拡大。
- ・ACTプログラム（販売店支援機能）の継続、勝ち残り店舗を創出。
- ・卸売機能である販促策の充実、効率的な人員配置により収益構造変革を実行。

### ◆車関連事業の強化

- ・大阪カーライフグループ（日産大阪販売）を基軸とした車関連事業の新たなシナジーの創出。
- ・新たな事業領域への進出、車関連事業基盤を強化。

### ◆エネクスオート事業の進化

- ・コーティング、車検、钣金、車買取・販売、レンタカーをブランド化し市場拡大、収益拡大。

## 下期以降の取組み（エネルギートレード事業本部）

流通インフラ・ネットワークを中心とした機能の更なる拡充と  
新商材・新規事業への取組み

- ◆“販売－流通－仕入”の一貫体制の構築
- ◆“質と量”のバランスの見極めと組織の最適化
- ◆基地・船・ローリー等の流通機能強化の推進
- ◆新商材・新スキームへの取組み
- ◆新規事業／新たな収益基盤の創出

1. 2014年度上期 全社決算概況

2. セグメント情報

3. 下期以降の取組み

4. 電力事業の取組み

5. CSR活動報告

# 電力事業の取組み（電力・ユーティリティ事業本部）

## VISION

社会に必要とされる※Prime PPS(PPPS)となる

※Prime = (形) 最初の、根本的な、主要な、最上の、優秀な  
(名) 素数

## 中長期目標

- 1) エネクスの中核となる事業本部を目指す
- 2) エネクスの既存ネットワークとの連携と総合エネルギー化への貢献
- 3) PPS上位を目指す

## 戦略

- ・ 電源開発の推進
- ・ 小売・需給機能の強化
- ・ 戦略的提携

# 電力事業の取組み（電源開発）

◆当社第3の風力発電所である『JEN胎内ウインドファーム(株)』（新潟県胎内市）が9月に稼働を開始しました。

大分県（玖珠郡）

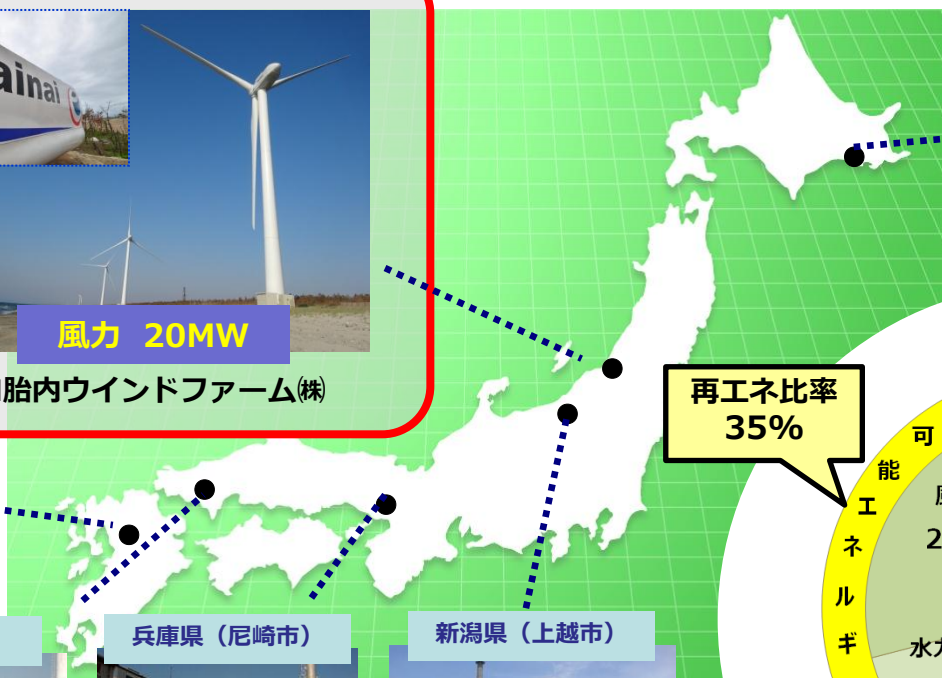
JEN玖珠ウインドファーム(株)

新潟県（胎内市）

風力 20MW  
JEN胎内ウインドファーム(株)

北海道（根室市）

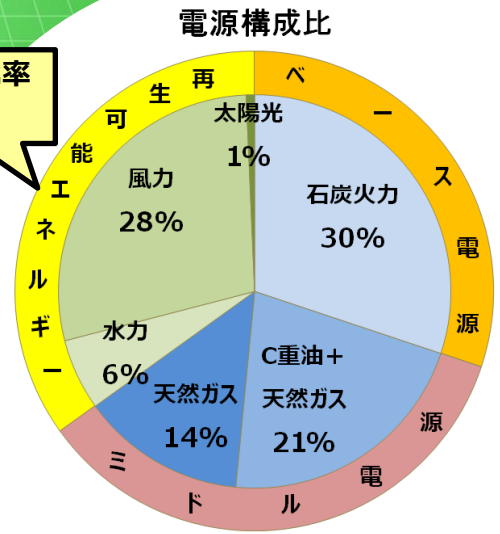
JEN昆布盛ウインドファーム(株)



山口県（防府市）

兵庫県（尼崎市）

新潟県（上越市）



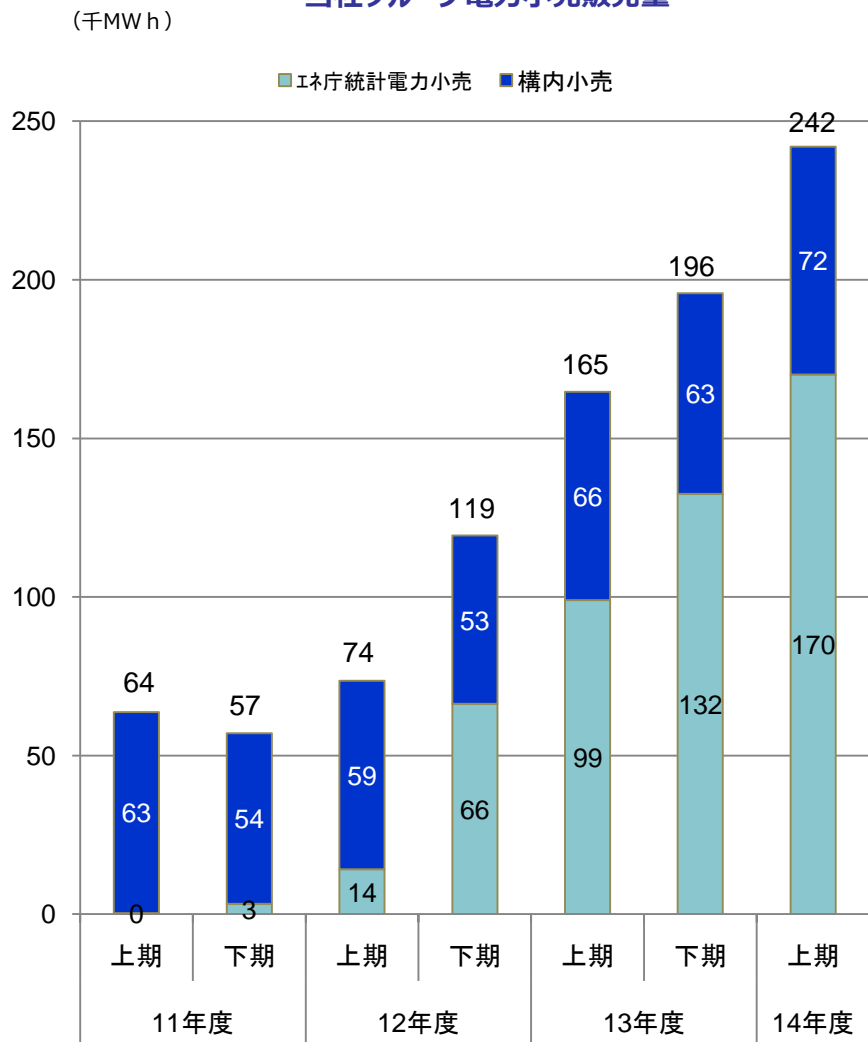
能力増強中

9月末発電能力 145MW

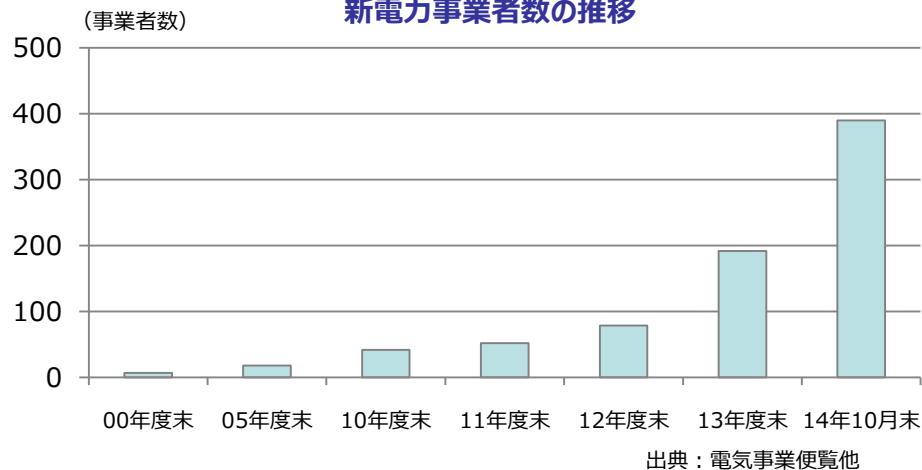


# 電力事業の取組み (小売強化)

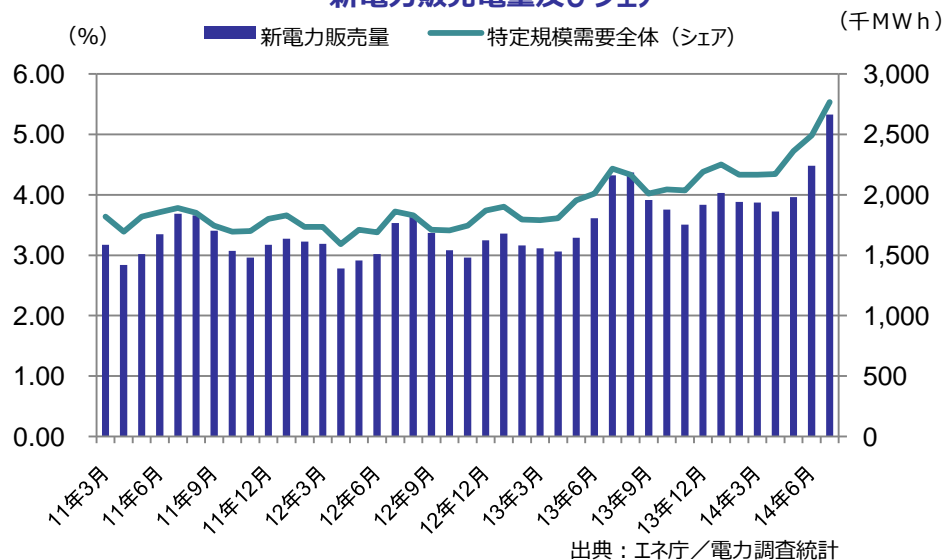
当社グループ電力小売販売量



新電力事業者数の推移

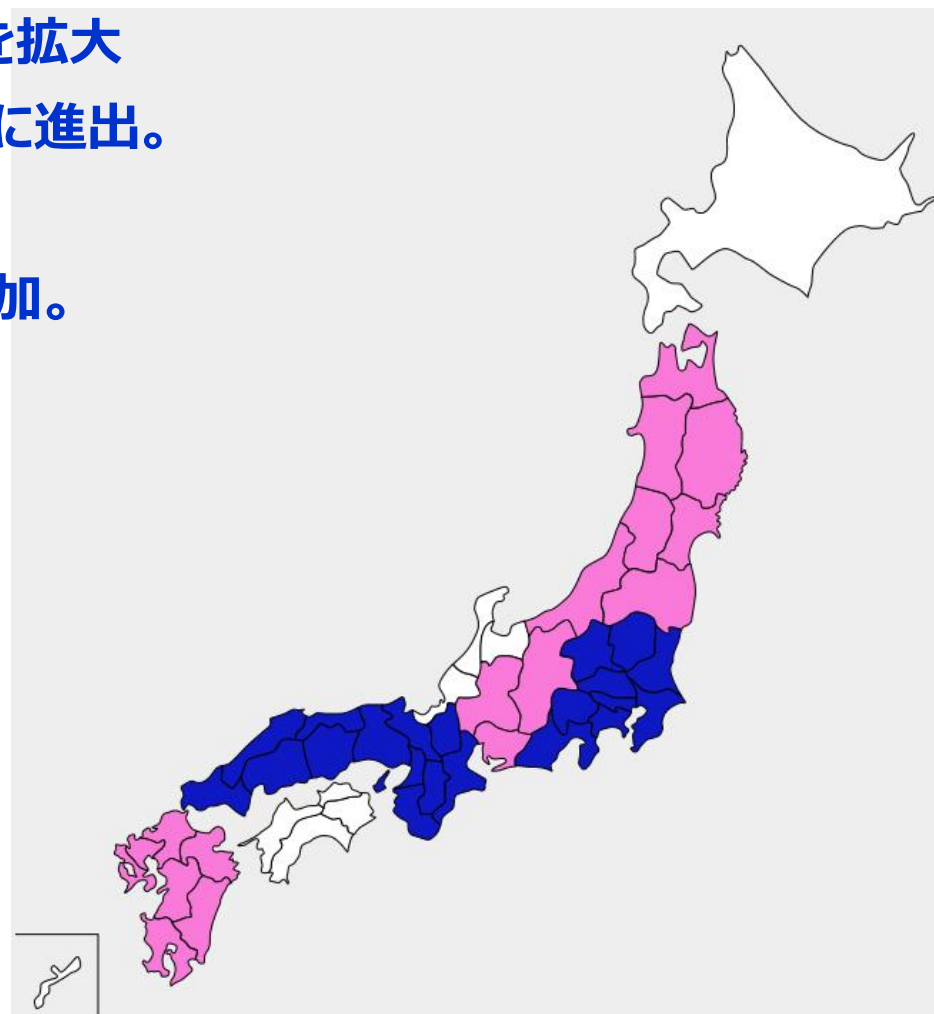
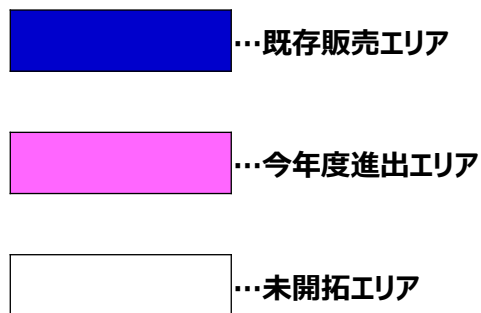


新電力販売電量及びシェア



# 電力事業の取組み（小売強化）

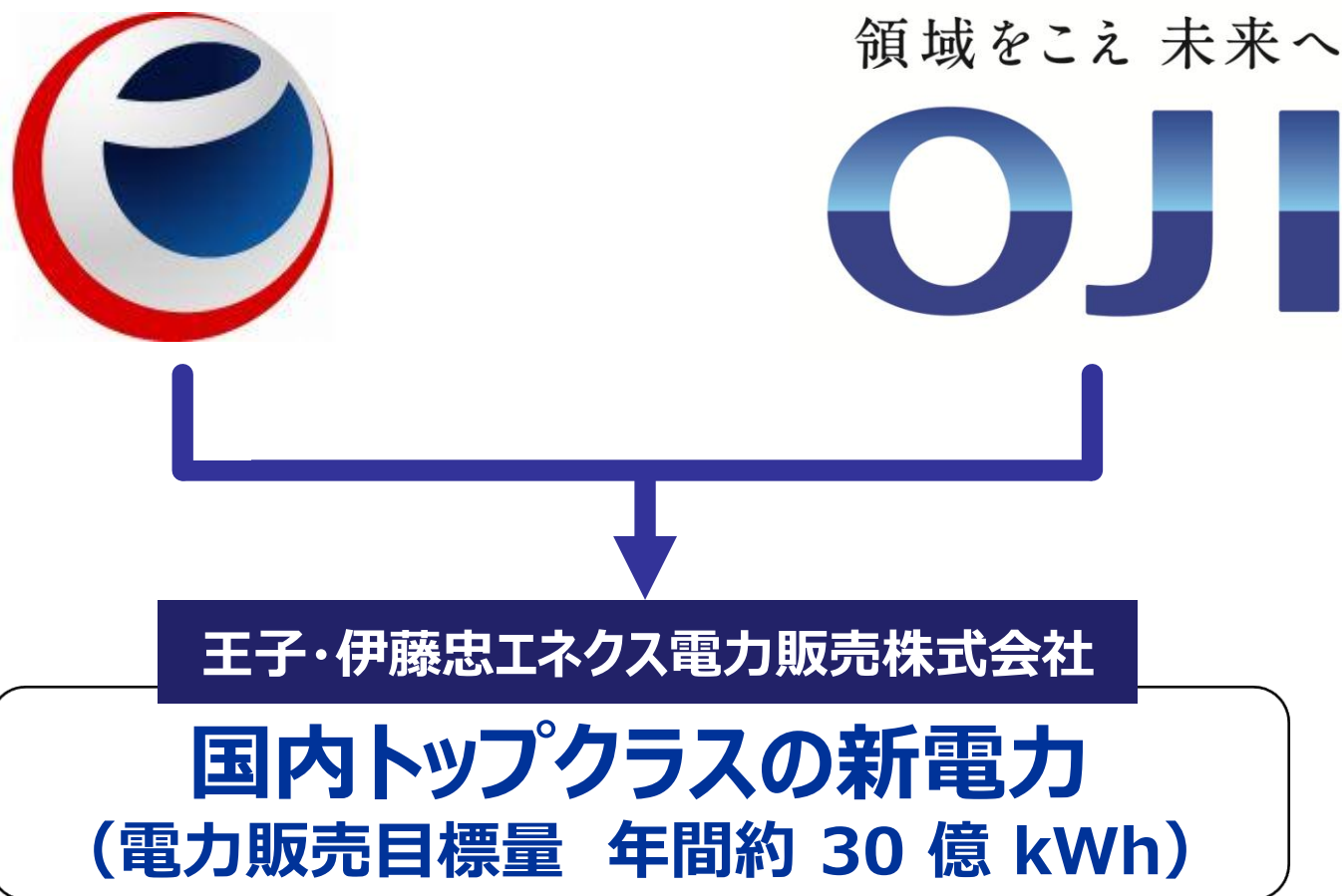
- ◆電力小売事業は販売エリアを拡大  
今年度より東北・中部・九州に進出。  
関西には駐在員2名を派遣。
- ◆東京・関西・中国も、契約増加。



**北海道/四国エリアの進出  
を検討中。**

## 電力事業の取組み（戦略的提携）

- ◆当社と王子ホールディングス(株)の子会社である王子グリーンリソース(株)で電力販売事業を行う合併会社を設立することに基本合意致しました。



# 1. 2014年度上期 全社決算概況

# 2. セグメント情報

# 3. 下期以降の取組み

# 4. 電力事業の取組み

# 5. CSR活動報告

## CSR活動報告（東北復興支援等）

### 第18回ボランティア派遣（宮城県気仙沼市）



### MIYAGI POKERUN協賛（宮城県）



7月30日～8月3日開催

参加者が宮城県内を巡るスタンプラリーと音楽イベント

主催：東北国際フィルム&アートフェスティバル協会

 ITOCHU ENEX CO.,LTD.

Copyright©2014 ITOCHU ENEX CO.,LTD. All rights reserved.

### 障がい者水泳指導支援

第5回ゆめけんカップ（8月31日開催）

（東京都江東区）



### ことばの力を楽しむ会（宮城県仙台市）



2014年11月15日開催

本年3月の青森県八戸市での開催に続き、当社社会貢献活動の一環として、宮城県仙台市にて「ことばの力を楽しむ会」（絵本の朗読会）を開催。

司会：町永俊雄元NHKアナウンサー、出演：山根基世元NHKアナウンサー、ゲスト：進藤晶子元TBSアナウンサーほか

主催：伊藤忠エネクスグループ

# 2014年度 伊藤忠エネクスグループ経営計画

2014年度経営方針：



- ① 石油・ガス事業におけるビジネスモデルの変革
- ② 新たな収益源獲得のための新事業創造
- ③ M&A駆使による既存ビジネスの更なる拡大
- ④ 電力・ユーティリティ事業の基盤整備とネットワーク化
- ⑤ 海外事業の開拓・深耕
- ⑥ “エネクスDNA”のバージョンアップ

# ご清聴ありがとうございました

## (1) ご注意

資料の内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りおよび当資料に掲載された情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。

また、当資料に記載されている当社の現在の計画、戦略などは、当社が現時点で入手可能な情報を基礎として作成した見通しであり、これらの将来予測には、リスクや不確定な要因を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果となることがあり得ます。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。

## (2) 問い合わせ先

**伊藤忠エネクス株式会社 調査広報部 IR広報課**

**【TEL】03-6327-8003 【FAX】03-5562-1302**

**【E-MAIL】enex\_irpr@itcenex.com**